

第38号

NPO 法人子どもたちの生きる力をのばすネットワーク
Newsletter 2025（令和7）年 12月 6日 発行



のばす会・ネットワーク便り

本部事務局 〒475-0817 愛知県半田市東洋町1-8 アイプラザ半田 109, 110号室

☎ 080-1622-5717 代表理事 村瀬 明子

E-mail nobasukai1993@gmail.com

http://www.f-school.jp/nobasukai/

https://www.instagram.com/npo_nobasukai1993



ホームページ

インスタ



夏休み寺子屋のわくわく時間

スタッフ 伊藤 里香

猛暑が続く夏休み寺子屋に、小学生から高校生の子ども達 23名が元気に参加してくれました。7月の企画として、アイリッシュハープの演奏に合わせながらライブペイントを披露してもらいました。音楽とアートを通して、目や耳、楽器に触れるといった五感いっぱいに子ども達に感じとってもらえて良かったです。8月は日本福祉大学の学生 3名が、市民性を学ぶ目的としたサービスラーニングの活動で、アイスクリーム作りとパラシュート工作を企画してくれました。氷に塩を入れて急速冷却される反応で作ったアイスクリームは、美味しい！と子ども達がとても喜んでいました。

大学生 3名の感想をご紹介します。

☆寺子屋事業に参加させていただき、子どもたちとの関わり方を学ぶことができたと思います。終始どのように関われば良いか迷う場面は多くありましたが、そっと見守ることもまた大切だと気づきました。自分の得意なことをきっかけに関係を築き、子どもたちと遊んだ4日間はとても充実していました！

☆子どもたちが自ら「やる・やらない」を選択しながら、自分らしく過ごしている姿が印象的でした。その主体的な選択を大人が尊重することで、子どもたちにとって安心できる居場所となっていることを実感し、ユースワークへの理解を一層深めることができました。

☆小学生から高校生までが集まり、遊びや勉強を思い思いに楽しむ場所です。様々な背景をもつ子どもが自然に交わり、大人も一緒に楽しい時間を過ごしています。子どもが安心して自由に過ごせることや、時に見守り、遊びや話をしてくれる大人がいることが、みんなの居場所になっていると思います。「寺子屋は半田市子どもの学習と生活支援事業です。」



：子どもがどのように発達するか、将来自立・自律して生きていくために周りの大人ができるることを考えてみませんか。

<のばす会文化祭講演会の案内>

- 1 テーマ 子どもはどうやって成長していくのか ~子どもに自律してほしい親や大人たちへ~
- 2 日 時 令和8年1月25日(日) 13時30分～15時30分(開場13時10分)
アイプラザ半田2階小ホール
- 3 講 師 米村 高穂氏(臨床心理士・公認心理師)
医療法人純和会産業精神保健(IMH)研究所研究員(チーフ)、愛知学院大学大学院非常勤講師
小・中学校スクールカウンセラー、現在、精神科病院・クリニックでうつ病等のカウンセリング
企業でのメンタルヘルスセミナー、小・中3学校でカウンセリングを中心に活動されています。
- 5 定 員 約100名 料金 無 料
保護者、教職員、心理士、保育士、その他子どもん関わる支援職、関心のある方どなたでも

フリースクールは今



スタッフ 石黒 辰彦

この2・3年、フリースクールにやってくる子は減少傾向にある。多方面で、不登校の子の受け入れが増え、のばす会への参加が減つて来たようにも思える。そのためスタッフが活躍できない場面も増えてきている。もちろんトランプや卓球などで楽しむこともできるのだが、やはりそれだけではもの足りない。でも、少ないが故に一人一人に目が十分行き届き、子供の成長を確認でき、共に喜ぶこともできる。今後ののばす会は『居場所としてののばす会の良さ』を發揮して、のばす会に来て良かったという子が一人でも増えてほしいと思う。数年後、卒業生と顔を合わせることが楽しみだ。



空の科学館見学

スタッフ 村瀬 明子

少し雨模様の日でしたが、半田市空の科学館に行きました。参加者は、小学生3名、大人4人でした。「ワン・スカイ・プロジェクト」のプログラムに従って、昔からインドに伝わる星を見るための天文台の紹介がありました。その昔、インドに星の大好きな王様がいて、季節によって見える星が違うことなどに気づき、太陽や月の運行を観測するための観測器を考えたり、日時計を建設したりしました。今は世界遺産（ジャンタ・マンタル）になっています。小学生には、少し難しかったかもしれません。それでも、ドーム型の天井が開き、星座がみえるようになると、「わあ～」とため息が出るような驚きでした。そして、空全体が動き出すと、何とも言えぬ興奮状態でした。帰るときには、「楽しかった。」と言っていましたから、みんなで一緒に社会見学に行ってよかったなと思いました。

社会で生きていくために何が必要なのか？人に頼る力「相談力」

臨床心理士 米村 高穂

これまで子子どものことを中心にコラムを書いてきましたが、今回は大人が社会で生き抜くためにどんなことができるかを考えてみたいと思います。私は、これまで働く人のメンタル的な支援にも携わってきました。その間、製造業や公務員、教育・医療・福祉関係と様々な職場の人と話をする機会に恵まれました。病気になってしまった人、病気にはなっていないが仕事の方向性や対人関係で悩む人、部下の教育に悩む人、会社の経営をされている人たちです。そのような色々な会社と20年近くお付き合いをしてきて、多くの職場の上司が大切なこととして言うのは、「ホウレンソウ（報告連絡相談）ができない社員が一番困る」ということでした。また、ある会社では、「部下が相談にこない…どうしたら相談しやすい職場が作れるかセミナーをやってください」と言われたこともあります。その会社で上司の言葉を拾ってみると、できない社員に向ける言葉に「甘えている」「怠けている」という発言がしばしば見られました。つまり、「相談に来てほしい」というメッセージと「甘えるな」に論理矛盾を起こしていたということです。これでは、相談に行きにくい雰囲気や企業風土が作られてしまって、部下は相談に行きにくくなってしまうでしょう。

高度に分業化された現代社会において、例え自営業だとしても、“独りだけで”運営するのは不可能です。会計であれば会計士に頼るだろうし、税金のことであれば税務署に相談に行くこともあるでしょう。あるいは、関連企業の力も借りながら一つのものを作り上げていかないと仕事はできません。会社でメンタル不調を起こす人の中には「周囲にうまく頼れないこと」がしばしば見られます。

このように考えてみると、私たち大人も、仕事や家庭のことで悩んだ時に、人にうまく「頼る」ことはまだまだやってみてもいいと思います。子どもや保護者をサポートする社会資源は、この30年で格段に増えたと思いますが、子どものことで悩む保護者の孤立感はまだまだ大きいと思います。のばす会の「生きる力」というのは、「人に頼る力」も含まれるのではないかでしょうか。

犬たちや鷹・フクロウによるアニマルセラピー再開



スタッフ 赤松 由隆

暑い7、8、9月は中断していたアニマルセラピーが10月から再開できました。高浜のつばさクリニックを中心とするボランティアの皆さん6名を中心に今回初めて参加したスタッフオードシャー・ブル・テリアのサニーさんを含め7匹が中庭に集まりました。この日を待ち焦がれていた子どもたちがおっかなびっくりで犬たちに近づいて触ったり、犬を抱いたり、リードを持ったりして触れあっていました。セラピー犬やボランティア犬もはしゃいで駆けまわったり、大きな犬は飼い主さんにリードを持ってもらい触ってもらって、気持ちよさそうでした。今回だけに参加した親子やのぼす会の子どもたちやスタッフも楽しそうに過ごしていました。

10月30日には御鷹組代表の中井雄二さんによる鷹やフクロウによるウイングセラピーを1年ぶりに開催しました。鷹のえ付けから始まり、生肉しか食べないことやえさの与え方、懐かせるための訓練の仕方などみんなに詳しく説明していただきました。参加者は初めて見る鷹やフクロウがえさを求めて屋根から飛んできて左腕に止まる様子を見ていました。何人かがやっているのを見て、自分も載せてみたり、おっかなびっくりの様子で体験していました。慣れてくると羽根をなでたり、えさをやったりして、猛禽類の様子を観察していました。特にフクロウ(みみずく)の首の動きや、目の大きさなどに驚いていました。のぼす会ではアニマルセラピーを実施して、なかなか外に出ることができない子どもたちが何かをきっかけに外に出て楽しいひと時を過ごしてもらえたらしいなと思っています。



卒業・中退後の支援を考えよう！

スタッフ 赤松 由隆

不登校・ひきこもりの人たちにとって中学卒業後の支援が重要になってきています。今回半田保健所で愛知教育大学教育学部 川北稔准教授から「連携と協働から考える不登校・ひきこもり児童生徒の卒業・中退後の支援の継続について」のお話を聞く機会がありました。その中で社会的孤立にならないように多様な背景に応じた支援のあり方について、不登校やひきこもりの解決を支援の第1目標とせず、安心感を優先し、外の人と関わって損はないと思える関係を築き、あいさつや雑談を通してつながりを保ち、多角的な理解をして、その人らしく社会とつながる選択肢と一緒に考える必要性を強調されました。半田市では断らない相談窓口を通してひきこもり相談・アウトリーチを含む支援体制を作り、社会福祉協議会でも卒業後の支援を中学校や高校と連携している様子の発表がありました。各市町や関係団体でも相談活動以外にも講座の開催や居場所の提供など工夫して取り組んでいる様子を聞くことができました。

なかなか不登校やひきこもりの保護者や当事者とつながらない中、のぼす会でもただ持っているだけでなく、働きかける機会を増やしてつながる努力が必要だと思いました。のぼす会では中学生以上の人を対象に居場所と学習支援の提供しています。

学習支援のご案内

不登校や引きこもりの人たちにとって中学を卒業すると居場所や学習する場所がほとんどありません。そんな人たちが気軽に相談したり、楽しくおしゃべりしたりする居場所や学習をする場所を提供します。個々に応じた学びを通し、自己選択による自主学習につなげ、自己肯定感を持てるような活動にしたいと願っています。

1. 対象：高校受験を目指す中学生や卒業はしたけれど高校に行きたくなった人、高校中退して転校や高卒認定試験を目指す人、通信制高校での学習に困っている学生など
2. 日時：毎週木曜日午後2時30分から5時まで（夏休み4日間の学習支援）
3. 場所：アイプラザ半田 のぼす会110号室
4. 内容：学習支援と居場所の提供
5. スタッフ：学習専門のスタッフや大学生、のぼす会のスタッフ
6. 持ち物：教科書を中心に各自学習に必要な教材教具 <詳しくはホームページか直接連絡をください。>



結構なお点前でした！

スタッフ 新村 由美子

今年も榎原知子さんのご好意により和室にてお茶会が開かれました。初めての子も昨年経験した子もちょっと緊張した面持ちです。美味しいお菓子をいただいた後お抹茶をいただきました。先生の「お抹茶点ててみる？」というお声掛けにチャレンジする子もいました。お抹茶を点てたり、お菓子を運んだり、楽しく貴重な経験が出来ました。静かにゆったりとした空気が流れる中、いつもは活発で元気な声を上げる子どもたちも、その時間を楽しんでいました。また普段、抹茶味のアイスやお菓子などに馴染んでいる子どもたちにとって本当のお抹茶は新鮮な驚きでもあったようです。



インスタ始めました！

高校生を中心のぼす会のインスタを始めました。学生スタッフのアドバイスをもらい個人情報に気を付けながら、のぼす会の活動の様子を紹介できたらと思います。 @npo_nobasukai1993



日本福祉大学ボランティアサークル「結日」の紹介

日本福祉大学の学生が行うボランティア団体、結日（ゆいび）です！半田市内でボランティアを行っており、学生と法人さん、地域の方が相互に学び助け合える活動を行っています。今後ものぼす会では2部学習支援で関わらせていただきます！

今後の予定と活動

のぼす会の終業と始業 終業：12月23日（火）始業：令和8年1月7日（水）

冬休み寺子屋 12月23日（火）～25日（木）13時～16時

文化祭講演会 令和8年1月25日（日）アイプラザ半田小ホール 13時30分から

のぼす会 終業：3月24日（火）

卒業、進級を祝う会 3月20日（金）研修室 10時から12時

ご協力ありがとうございました。皆様の志が子どもたちの未来へつながります。

＜寄付者の皆さま＞ 令和7年8月～12月（掲載可の方々です） 順不同 敬称略

山内睦代、黒木伊津子、苅谷香穂子、久澤郁子、福島富美、稻垣豊、伊藤恵造、新海美智子、竹尾裕子
中島義則、前田秀宝、山田ゆき、大橋晴美、榎原友恵、江村和彦、石黒雄大

＜ろうきん寄付システムの皆様＞ *毎月のご寄付ありがとうございます。

＜助成金＞半田市子ども育成課 100,000円（春休み寺子屋）

＜物品の寄付＞*バームクーヘンやいろいろなお菓子など多くの方からのご寄付ありがとうございました。

＜書き損じハガキ・未使用切手のご寄付の皆様＞榎原知子

相談に来られた方や過去在籍された方の通信費に使わせていただきます。

＜こどもサポート証券ネットによる支援物資＞

・立花証券 KK（お米2キロ3袋、トマトジュース30缶2箱、レトルトカレー15個）

・楽天証券 KK（米5キロ1袋、焼きのり1袋、オニオンスープ1袋、北海道ラーメン20袋12個）
(米5キロ1袋、パックごはん180g×12個×2箱)

皆さんの寄付でのぼす会は成り立っています。ご支援ください。
年会費・寄付金の振込先 □年会費 2,000円 □寄付金 1口 1,000円から

①知多信用金庫 美原支店 口座番号 普通 2102161

名義：特定非営利活動法人 子どもたちの生きる力をのばすネットワーク

②東海労働金庫 半田支店 口座番号 普通 4500549

名義：特定非営利活動法人 子どもたちの生きる力をのばすネットワーク

代表理事 村瀬明子

※NPO寄付システムもあります。お問い合わせください。

③ゆうちょ銀行 振替口座 口座番号 00810-9-154412

加入名：特定非営利活動法人子どもたちの生きる力

スタッフ募集！

一緒に学習したり、遊んだりして、寄り添ってくれる人 週に1回でもかまいません。詳しくは下記までご連絡ください。

連絡先

080-1622-5717